

生活科の実践

俱知安町

生活科

2年

地域の人と出会い、My太鼓にのめりこむ！

『大すき！ 俱知安町』

～みんなといっしょに！ 羊蹄太鼓～

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>

この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます



この単元は、内容（3）（5）（8）（9）に関連して、太鼓を通して子どもたちが地域の人や文化への関心を深めるものです。

自分の太鼓を作る過程では、意図的に課題を設定することで、課題意識が明確になり、意欲が継続していくように工夫しました。

学習活動の流れ（9時間）

羊蹄太鼓保存会の方、そして担任による生演奏を聞かせることで、子どもたちに「やってみたい！」という気持ちを持たせました。

意図的にしきけを設定することで、子どもたちに課題意識を持たせ、意欲が継続するようにしました。

「個」の気付きが全体に生かされるように、それぞれの場面ごと、意図的に交流する場面を設定しました。

みんなで羊蹄太鼓を覚えよう（3）

- ・「太鼓のろくさん」を知ってるよ
- ・やってみたいな
- ・大きなたいこだよ
- ・たたけるかな？

自分の太鼓を作っちゃおう（5）

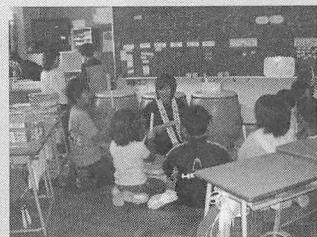
- ・太鼓が足りないよ
- ・My太鼓を作ろう
- ・材料が足りないよ
- ・みんなに協力してもらおう
- ・いい音がでないよ
- ・どうしたらいいかな、教えあおう

聞いてもらおう（1）

- ・「太鼓のろくさん」に聞いてもらおう
- ・一緒に演奏したいな
- ・じょうずになって、うれしいな

スキーとじゃがいものまち、俱知安町の小学校の実践です。

地域には「もの」だけでなく、「ひと」も大きな魅力として存在します。本物の演奏と出会うことで、子どもが「もっと」をふくらませる学習活動です。



羊蹄太鼓だ

教材・活動の **Point!**

1. 「やってみたい」を引き出す「出会い」

活動のスタートは、どれだけ子どもに興味や関心、意欲をもたせるかが重要です。この単元は、俱知安町の無形民族文化財である「羊蹄太鼓」の生演奏から始まります。羊蹄太鼓は、昭和38年から俱知安町で愛されている太鼓の会です。目の前で演奏される和太鼓の迫力に子どもたちは惹かれていきました。印象的な出会いが、活動のエネルギーになっていきます。また自分の太鼓をもたせることで、一人一人の意欲がつながっていきました。

2. 「もっとやってみたい」を引き出すしきけ

子どもの気付きの質を高めるために、自分の活動を振り返らせたり、試行錯誤させたりといった教師の意図的なしきけの設定が有効な手立てとなりました。活動の節目で次に子どもが向かいたくなるだろうと予想される人に出会わせたり、交流会を開くような手筈を整えたりしておいたのです。念入りに単元の流れを想定していくことで、活動がスムーズにすすみ、気付きの質が高まっていきました。子どもたちは友達と交流したり、ゲストティーチャーに教えてもらったりといった人とのかかわりからたくさんのこと学んでいきます。

